

学校教育目標	「すすんでチャレンジ 共にかがやく 心豊かな秋葉の子」 ○学ぶ楽しさ できる喜びを実感し、粘り強くやりとげる子を育てます。(知) ○自分も周りの人も大切にすあたたかい子を育てます。(徳) ○心と体をきたえ、生命と体を大切にす子を育てます。(体) ○みんなのために自分ができるところをすすんで行う子を育てます。(公) ○人とのコミュニケーションを大切に、共に生きようとする子を育てます。(開)				
	創立 39 周年	学校長 近藤伸	副校長 馬場弘子	2 学期制	一般学級: 27 個別支援学級: 9
学校概要	児童生徒数: 970 人 主な関係校: 秋葉中学校・川上小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自分づくりに関する力〉 〈言語能力〉	秋葉中学校 川上小学校	豊かななかかわりの中で、自他を認め合い、ともに高め合う子ども  ・「豊かななかかわり」とは、どのような場面、どのようななかかわりのことなのかについて検討し、ブロックでの活動の中に取り入れていく。 ・児童生徒が自分のよさを見つけ、互いに認め合い、ともに高め合うことができるような学習支援や生活指導について探り、それを9年間の学びのプロセスとして「小中一貫カリキュラム」の中に位置づけることができるようにする。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かななかかわりの中で、子ども一人ひとりを大切にす学校にします。</li> <li>・教師一人ひとりの授業力向上を図り、学習の楽しさを実感できる授業を目指します。</li> <li>・組織的な対応で有効に機能する児童指導を通して、子ども同士が個々の人格を大切にできるようにします。</li> <li>・一人ひとりが自己有用感をもち、自分らしさを発揮できるようにします。</li> <li>・食育、健康教育、体力づくりの充実に努め、健康な心と体の維持、増進を図ります。</li> <li>・あいさつ運動を推進する中で、自主性や協調性の気持ちを育てます。</li> </ul>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 学習指導	①重点研究を中心に全教科を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行い、自分づくりに関する力と考えや思いを表現する力の育成を目指す。②身に付けるべき力を明確にし、系統性や横断的な教科の関わりを意識した学習活動を展開していく。
担当 研究推進委員会	
徳 特別支援教育	①「どの子どももみんな 秋葉の子」を掲げ、どの子どもも必要な指導・支援が受けられるよう、全教職員の意識向上・情報共有に努める。②児童・保護者のニーズを把握するための教育相談の充実、校内研修による教師のスキルアップを図り、安心して学べる環境を整える。
担当 特別支援委員会	
体 健康教育	①食育に関する集会や授業を行う。②縄跳びチャレンジや意図的に作成した縄跳びカードの活用など、年間を通じて体力の向上を図るとともに家庭への啓発も行う。③歯科保健や情報機器との上手な関わり方を通じて、より良い生活習慣の獲得につなげる。
担当 体育部	
公 自分づくり教育	①「学校のきまり」は年度初めや必要に応じて全教職員で確認・点検し、一貫した指導を行っていく。学級ごとに立てる月目標を生かし、付けたい姿勢や力を明確にしていく。②児童理解タイムを充実させ、全児童を全教職員で見守っていくという体制を継続する。計画的に研修を組み、研鑽を積む。
担当 児童指導委員会	
いじめへの対応	①「Y-Pアセスメント」「横浜プログラム」を継続して活用し、児童の実態把握や変容の見取りに努める。取組に差が出ないよう、プログラム選択は学年で相談しながら行う。②いじめ防止基本方針に基づき、児童の細やかな変化や予兆等に気づく目・感覚を高められるよう、共通理解の場や研修を積み重ねていく。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	①若手職員によるメンターチームにおいて、定期的に相談会を実施し、解決するための研修会を適宜行っていく。②ミライム等を活用し、こまめな情報の共有化を図る。また、報告・連絡・相談を徹底し、チームで学校運営に当たる。③事務の簡素化・効率化、また会議の討議内容の精選を図り、全職員の組織的な働き方改革につなげる。
担当 教務部・メンター	
人権教育	①子どもの学びを深める人権学習を、発達段階に合わせて計画する。②教職員が朝昇降口に立つことや児童委員会を中心とした働きかけによって、年間を通したあいさつ運動に取り組む。③学年研や全職員での打ち合わせを通して、児童理解に特化した共通理解を行うことで、支援を必要とする児童の支援体制をつくる。
担当 人権福祉委員会	
地域学校協働活動	①子ども達自身が安全を意識して登下校ができるように指導する。②かるがもクラブや交通安全パトロールなどで協力し、地域と学校がともに児童を見守る風土を作る。③学習材としての地域の人材を集約し、より児童に身近な学習展開ができるようにする。
担当 家庭地域連携委員会	
情報活用能力の育成	①タブレット端末やロイノートを生かした授業を行えるよう、授業研究や研修会を行っていく。②プログラミング的な考え方を生かした授業を行ったり、実際に端末を用いたりしてプログラミング教育を推進していく。③ICTにおけるルールや情報モラルが児童に身に付くよう指導を行う。
担当 評価情報委員会	
担当	b10